



JSPE Magazine Quarterly

The Japan Society of Professional Engineers

2011 Happy New Year



Pursuit of Global Professional Integrity

Best wishes for a wonderful New Year!
We extend our bona fide gratitude for your warm support & celebration to our 10th anniversary.

President Masahiko Tsuchiya, PE



An affiliate of NSPE

Japan Society of Professional Engineers

Since 2000

www.jspe.org

2011 年新春のご挨拶



JSPE 会長土屋 雅彦

JSPE 会員の皆様、
新年明けましておめで
とうございます。

2010 年という年を
振り返ってみると、
2008 年のリーマンシ
ョックから 2 年が経過
し、世界経済は緩やか
な回復基調にあるよう
ですが、先進国におけ

る失業率は依然として高いままとなっています。2009 年に各国
が実施した回復に向けた景気刺激策や金融緩和策が、功を奏し
たと言われます。しかし、それも束の間、5 月以降には、欧州諸
国の財政・金融危機の高まりが、各国の自国通貨の引き下げ競
争と繋がり、また新興国においては、資産バブルを抑制するた
めに、国外からの資金流入への規制が始まっています。こういう時にこそ、国際的な政策協調
が求められるはずなのですが、実際に起こっていることは、全く逆で、どこの国でも自国だけ
の生存、あるいは、自国民の支持や評価を得ることが優先されがちです。

「グローバルに活躍できるエンジニア」の育成を支援する私達 JSPE の理念から見ると、
2010 年に起こった様々な事柄は、特に世界経済・政治的な側面を見ていると明るい話題を見出
せません。新年のご挨拶の場を借りて、今回は、国家という枠組み、あるいは政治経済的な側
面、すなわち「ハード」なグローバル化を少し離れて、個人の価値観により重きを置
く「ソフト」なグローバル化について書いてみたいと思います。まずは、国籍とか、
存在する地理的位置、貧富格差などを超越しようという新しい潮流が生まれている例を、身の
廻りから二つほどの話題として取り上げさせて頂きたいと思います。そして、最後に、もう一
度「ハード」な面、あるいは「国」との関わりについても再考してみたいと思います。

さて、身の廻りで注目される「ソフト」な変革の一つ目は、皆さんもご承知の Social
Networking Service である facebook です。2004 年にハーバード大学から生まれたスタートア
ップ企業の試みは、国境を超えて瞬く間に世界中に広がり、今では 4 億を超え 5 億人近い人々
が、顔も知らない間柄にも関わらず、意見を交わし同好の士を求めることを可能にしました。
人口一位が中国で 13 億人、二位がインドで 12 億人。facebook の人口は 5 億人で、三位の米国
の 3 億人をあっという間に追い越してしまいました。2012 年には 10 億人に達する facebook
社会は、世論形成まで始める可能性も秘めています。国家ではなくとも、いずれ国家が無視で

年賀状	P 1
トップページ ;	P 2
NCEES 総会報告 ;	P 5
州登録関連記事 ;	P 7
オレゴン州試験資格認定 委員会情報 ;	P 9
州登録体験記 ;	P 12
PE 試験合格体験記 ;	P 16
PE 会員のためのページ ;	
私の PDHaudit 体験 ;	P 21
海外からの連絡 ;	P 23
会員からの投稿 ;	P 29
理事会ニュース ;	P 31
新入会員紹介 ;	P 36

きない存在になることは明白です。

また、各国の人口成長速度を比較してみると、つまり出生率ですが、中国は 1.7 秒に 1 人が生まれ、インドでは 1.2 秒に 1 人が生まれてきています。インドに居た時に、「インドでは信号待ちの時間に人口がどれくらい増えるか？」というクイズを聞いたことがあります。赤信号が 60 秒とすれば、新生児が 50 人生まれてくることになります。では、facebook は？毎日 65 万人が新たに加入しているということですから、毎秒 7.5 人となります。信号待ちで 450 人が増える計算になります。

二つ目の変革は、私が注目している web サービスで「iTune U」というものです。これは、名前の通り Apple が音頭を取って配信している映像や音楽などの配信サービスの一部ですが、基本的に無料です。公開しているコンテンツは、世界中の著名な大学の講義ビデオ・音声・教材などです。既に、様々な形でニュースになり、ハーバード大学サンデル教授の講義 Justice はNHKでも配信され大きな視聴率を上げました。世界の頭脳といわれる人々の講義は、年間 300 万円の授業料が払える良家の子女だけの特権であってはならず、サブ・サハラに暮らしている一日一ドル以下で生活する子供達にもインターネットにアクセスできさえすれば平等に与えられるべきであるという考え方がベースにあり、もともとはMITが 2001 年に始めたすばらしい試みでした。今ではオックスフォード、イェール、スタンフォードなどの選りすぐりの名講義が、ここに並べられています。あるいは、所属している業界の無料セミナーも Podcast という形で配信されています。貧富や国籍に係わらず英語ができれば、誰でも自分を磨く機会が生まれています。

私が iPhone を購入した理由は、正しく iTunes U が、電車の中でも飛行機の中でも自分の細切れな自由時間を利用して聴講できるからです。私自身 iPhone も iTunes も自分とはあまり縁の無い世界、どちらかという遊びの世界ではないかという先入観がありましたが、最近梅田望夫の「Web で学ぶ」を読んでから考えが変わりました。世界を変えるかもしれないコンテンツ、ついでに言うと、そういったコンテンツにアクセスするために提供されたユニークなハードウェア。国籍や老若男女を問わずにユーザーを虜にする Apple の Universal Design Philosophy はすごいです。

以上の二つのグローバルに進行中の「ソフト」な変革を取り上げることで言いたかったのは、国際経済や政治は、なかなか難しいことばかりですが、巷では確実に新しいことが始まっていて、それらの中にはすばらしいこと、あるいは、将来すばらしい世界の実現に繋がる芽があるということです。PE Magazine にも紹介されましたが、「Be social」ということは、こういった web2.0 空間に積極的に加わることを意味します。情報漏洩やプライバシーなど、勿論情報共有に伴う功罪はあるのですが、プラスの方が圧倒的に大きそうです。参加者相互の国境や組織を越えた、新たな交流機会や学習機会が、どんどん増殖してきています。一人一人がグローバルな存在になる機会は、平等に与えられており、その機会を生かすかどうかは、完全に個人個人の意欲次第であって、もはや出来ないと言い訳することができない状況になります。個人だから、あるいは弱小のNPO法人だからという言い訳は、通らない時代に突入しており、やり方次第では、世の中を変える力を私達は持っているということです。少なくとも「知の民主化」「情報の民主主義」は、格段に進歩したと言わざるを得ません。

グローバリゼーションの潮流の中で、国家、あるいは独自の文化が失われていくことを放置

してよいのだろうか？という疑問は、誰もが多かれ少なかれ、自然に抱く気持ちなのではないかと思います。グローバリゼーションというのは、圧倒的な標準化・均質化のプロセスであり、しかも英語が必須だと言いますから、私達日本人にとっては大きなハンデキャップを負った辛い道なのです。坂本竜馬や秋山真之も、目的を達する過程においては、欧米や中国・韓国からも「欧米を模倣するサル」と言われながらも一生懸命に異文化を学ぶ努力を惜しみませんでした。でも、物語が大衆の関心を集める理由は、臥薪嘗胆の末、潜在能力を秘めた日本人が、その競争に勝ち抜き、強みを発揮できたところにあります。日本文化とか日本的価値観は誇るべきもので、エンジニアという職業でも、これが強みになっていると多くの人々が信じている、否信じたいと思っています。

もう一つ例を上げます。昨今国際入札とかエンジニアリングとかという業務に関して、やはり国家政策の優劣について愚痴りたくなることが多々あります。韓国政府の国家一丸となった強いリーダーシップが、人材育成プログラム（米国PE推奨もその一つだと思います）、中近東での巨大プロジェクトの連続受注を実現しています。また、中国政府は、世界の工場となって蓄積した外貨を使って、強かに資源権益買収などを行っています。国が行う業務プロセスの効率や戦略の巧拙に、差が出てきているのではないかと？

私たちの日本が、かつての姿、つまり新興国のような国家統制された制度に戻れるでしょうか？民間企業で解決すべき問題は、たとえ、難しくてもでも自分で解決せよということにしないと、所謂「モラルハザード」を起こしてしまいます。成熟した国家は、多様な価値観を許容しなければなりません。そして、成熟したグローバリゼーションの最終の勝者は、ローカルなユニークネスを大切にしているところかもしれないという逆説にたどり着くこととなります。「標準化」・「均質化」、これに対して正反対な概念の「多様性」が加わると、一体何を優先したらよいのか判らずに、話が循環小数のようにぐるぐる廻り始めそうです。

冒頭に取り上げた二つの「ソフト」の変革は、よく見ると標準化や均質化以上のご利益があることに気づきます。Web化は、情報共有のスピードを広げるとともに、少数意見の発信機会も以前より格段に増大させる効果もあったと思います。所謂「ロング・テール」（分布の端の方まで十分に品揃え可能）までスコープも広げました。つまり、この「ソフト」の変革を利用すれば、独自の文化や価値観についても、今まで以上に発信の機会が増加し、やり方次第では、急速に多くの個人の共感を集めることも可能なはずで。現にfacebookは、6年で5億人を獲得しました。

長々と述べてきましたが、2011年を迎えるJSPÉとしての結論をまとめたいと思います。それは、「国」としての問題、即ち、政治とか経済のような「ハード」の問題は、特に今のような時代では、突破口を見出すことがなかなか難しいと思われま。私達が今注目したいのは、「個人」の問題、言い換えると「ソフト」パワーかもしれません。情報格差は確実に解消されつつあるので、このメリットを十分に利用して個人や小集団が、志さえ持てば、何かが始められる時代になったことを再認識したいと思います。今日冒頭に取り上げさせてもらった二つの「ソフト」の変革に象徴される力を最大限活かすことが、現実的に私達自身ができることなのではないか、何らかのヒントを見つけたいものだと思います。

2011年 元旦

—2010年 NCEES 総会報告—

「これからの PE/FE 試験について」

JPEC 理事 義本正実

日本では、2006年からPE/FE試験の実施母体がオレゴン州からNCEES（全米試験協議会）へと切り替わり、2010年には日本におけるPE/FE試験の一切の試験監理をJPECが任されるまでになりました。このように日本における試験の環境が変化している中、本国米国での試験の動きを調査するためNCEES年次総会に参加しました。2010年の総会は第89回を数え、8月コロラド州デンバーで開催されました。JPECからは山内会長、廣瀬前会長、私の3名が出席しました。出席者は関係団体を含め約350名（同伴家族を含めると450名）でした。

NCEESはこの総会で、将来の試験に関する重大な決定を行いました。NCEESは、米国各州のP.E.、P.S.、S.E.の69のボード（資格登録局）から構成される組織で、全米共通でP.E.のあるべき条件をまとめ、実際にPE試験の問題作成と採点も行っている機関です。オレゴン州ボード/OSBEELSもその構成員です。各州が模範とするルールは、具体的に“Model Rule”、“Model Law”としてまとめられています

(→http://www.ncees.org/About_NCEES/Publications.php)

NCEESはP.E.に必要な三大要素として「学歴要件」、「試験合格」、「業務経験」を挙げており、そのうちの二点について、重要な内容の変更を決議しました。以下にその内容についてご説明します。

CBTの導入

まずFEとFSの試験について、2～3年後を目途に、従来の“Paper-and-Pencil exams”からCBT（Computer-Based Testing）に変更することになりました。

(→http://www.ncees.org/About_NCEES/News.php) この数年、NCEESのタスクフォースはCBTの導入について検討してきましたが、その実施に目途がついたということです。CBTのメリットとしては、試験問題運用上のセキュリ



総会での議論の様子

ティー向上、受験機会の増加（年2回から4回程度へ）、試験監理の軽減等が挙げられます。一方、問題作成の初期コスト、

テストセンターとの契約など、試験全体で見るとコストは増加する見込みです。それでも、長期的に安定して試験を実施していくためにはCBTの導入が不可欠である



総会でのJPEC 座席

として、今回の総会で各州から支持されました。日本の受験生は、これまでどおり JPEC に願書を提出し、指定された日本国内のテストセンターで CBT を受験することになります。なお、PE 試験については今のところ従来どおりの “Paper-and-Pencil exams” にて実施されます。

学歴要件の高等化

技術が複雑に進化した現代においては、P.E.に必要な学歴は“4年間の学士”では不十分であるという議論が続いてきました。今後、“Master of Engineering”でなく学士として受験する場合には、『学士の履修単位数 (Credit Hour) は 150 単位以上とし、このうち、115 単位以上は、Engineering 75 単位以上を含む、Math、Science でなければならない』という内容が決議されました。2020年1月(9年後)から“初めてP.E.登録する”際に適用されることになります。

その他の話題として、2013年からPE試験実施予定の“Software-engineering”そして将来的に新しく加わる見込みの“Bio-engineering”がありました。

また、NCEES試験合格後の登録については、次の各州が日本人のP.E.登録に前向きな感触がありました。Western Zone : California、Idaho、Washington、Wyoming / Central Zone : Iowa、Ohio、Minnesota、Nebraska、Wisconsin / Southern Zone : Alabama、Oklahoma、South Carolina、Texas / Northeast Zone : Connecticut などです。なお、NCEES Executive Director の Jerry Carter 氏によれば、日本人のP.E.登録については、日本と結びつきの強い太平洋岸三州 (California、Oregon、Washington) に求めるのがいいのではないかとアドバイスがありました。



前会長 David Whitman、新会長 Leonard (Joe) Timms Jr.、Jerry Carter 氏と

さらに、2008年からNCEES試験を実施している韓国技術士会の Nam-Ho 副会長は、“同じ組織で韓国技術士資格と米国PE試験の両方を進めているが、グローバル化には米国PE資格が有用なことはみんなが認めている。一方で韓国技術士と米国PEとの相互承認を交渉している”など積極的な姿勢を感じました。

JPEC では、将来のPE候補者に対しこれら新試験や要件の変更を順次広報していくことにしました。一方、現役P.E.にとっても、急速に変化する時代にあって、進取の継続学習がより一層求められているといえます。



NCEES の Staff

各州PE法事情

PE registration rule, State by State

⑨ニューヨーク州

State of New York



The University of the State of New York
The State Education Department
Office of the Professions
Board of Engineering and Land Surveying
Executive Secretary : Jane Blair, PE

PE 登録されるということは、たとえ市民権がなくともその州の一員となることである。

連載第9回は、アメリカの経済・文化中心地、ニューヨーク州 (NY) です。

ニューヨーク州 PE ボードホームページ <http://www.op.nysed.gov/prof/pels/>

1. ニューヨーク州立大学が州の教育と職業資格の全てを束ねる

“New York PE Board”でインターネット検索すると、PE 受験・登録のための手続きページはすぐ出てくるが、PE ボード単独のページはなかなか現れない。代わりに“州教育局”“州立大学”が所々に現れるので少し時間をかけて調べてみると、ニューヨーク州では州立大学の学長が州の教育局長を兼ね(Commissioner と呼称している)、州教育局の下に小中高校・大学と並んで PE を含む職業資格 (Professional Licensing) も束ねられているという構造であることがわかった。州教育局の History ページ (www.regents.nysed.gov/about/history.html) によれば、こうした教育体制はアメリカ独立以前の 1700 年代初頭にイギリスとオランダの教育体制を模して築かれたとある。

州 PE ボード長である Jane Blair さんの肩書きが “Chair” や “President” ではなく “Executive Secretary” となっているのも、州教育局直下に学校教育と職業資格全体を束ねる Board of Regents (評議会) が構成されていて、PE ボードはその下にぶら下がる多くのライセンスボードの一つという位置付けであるためのものである。

PE 法は Education Law 中の Article 145 Professional Engineering and Land Surveying、PE 規則は Regulations of Commissioner 中の Part68 Engineering and Land Surveying である。

2. 厳格な CPD システムを 2004 年に導入

NSPE が主催する CPD セミナに参加したことがある方なら「このセミナー CPD はニューヨーク州基準に適合しています/いません」という注意書きに覚えがあるのではないだろうか？

これがどのような基準なのか調べてみたいというのが今回 NY 州を取り上げた理由ですが、PE 州法・規則を調べると次のような CPD 基準であることが確認できた。

(www.op.nysed.gov/prof/pels/peceques.htm)

- ・ ライセンス更新は3年サイクルで、その間に36HrのCPDを獲得する必要がある
- ・ NY州PE登録の最初の3年間に限りCPD免除
- ・ 36Hrのうち18Hr以上は認定コース教育で獲得しなければならない。コース教育以外の実務経験などで認められるCPDは18Hrまで
- ・ 認定コースを提供する機関はNY州内の大学に加えて州認定の教育業者、NPOなどがある。また機関が形式的に認定されているだけでなく、コース教育の中では「講師と受講者がimmediate interactionしないとイケない」という実質的な基準も含まれる。

正に大学とPEを同じ局が束ねるNY州ならではの仕組みと言えるが、それなりに出費を伴うこの仕組みを2004年に導入した際は反対するPEもいたのであろう。州法の中にはCPD免除規定として次のような一項もあった。「2003年以前からNY州の政府機関に雇用されているPEはCPDを免除する」

3. 米国居住がPE登録の条件 リファレンスは不要

NY州PE登録の様式を見ると、「US Citizenship or admitted alien」の一項があり米国居住でない限りNY州でのPE登録はまず無理のようである。

(www.op.nysed.gov/prof/pels/peforms.htm)

この様式は顔写真の貼付が必要な他、学歴記入欄に大学だけでなく小中高校の項目があったり、奨学金ローンがまだ残っているか？という質問があったりと、NY州教育局のポリシーが窺えるものである。

業務経歴の記載もかなり詳細な規定があるようだが、リファレンス3-5通の添付に関する記載はないのでこれは不要のようである。これは歴史的に多くの移民を受け入れてきたNY州としてはあくまで移入を希望する本人の資質・資格を重視するという考えの現れか？

4. 州PE協会の活動は活発か

NY州は人口1900万人、PE登録数は2万5000人である。NY州PE協会(www.nysspe.org)のページを覗くと29もの地域支部(Chapter)がずらりと並びそのうち12の支部は独自のホームページを運営して様々な活動の様子を発信している。ニューヨークは様々なエンジニアリング協会が軒を連ねる土地でもあるので、今後NSPE総会などの機会を通じて交流を図っていききたいものである。

今回は南部ルイジアナ州の予定です。

記 2010/12/10
理事 川村武也

オレゴン州試験資格認定委員会情報

今回も OSBEELS（オレゴン州試験ボード）のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee（試験資格審査委員会）の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は 2010 年 10 月 15 日の議事録が対象となります。

- National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCEES) が「Fundamentals of Engineering (FE) の試験がコンピューターベースに変更になる」というニュースを公開した。Professional Engineering (PE) の試験には変更なし。

8 時間、端末に集中するのはかなり厳しいような気がします…

- NC NCEES のメモによると、現在海外（つまり米国以外）での NCEES 試験（PE、FE 試験含む）運営について、カナダ、エジプト、日本、韓国及びサウジアラビアと合意を結んでおり、両方の試験（例えば FE と PE）に合格した受験者は、professional engineer としての登録を、いずれかの NCEES メンバーボードに申請することになる。

昨年（2010 年）4 月号の JSPE マガジンでは、2009 年 10 月 9 日の OSBEELS 議事録の内容に関して、外国人受験者の締め出しの可能性や、ABET の認可プログラムによる学歴審査の厳格化について述べております。今回の議事録ではこのような点については述べておらず、「海外で試験があり、その合格者がメンバーボードに申請に来ることがある」という事実を述べているだけであり、JSPE、JPEC、韓国 KPEA 等が、外国人受験者への門戸維持・拡大への働きかけを行った効果がある程度出てきているのでは、という所感を持ちました。

但し、NCEES による受験ないしは登録審査時に ABET の認可プログラムが厳格に適用されることは変わっておらず、事実上オレゴン州で日本の大学卒業者が許可される可能性は非常に低いと考えられます。

現在は日本での試験合格後、外国人を受け入れてくれる特定の州ボード（例えばワシントン州）に登録している、というのが現状ですが…推移を見守りたいところです。

- NCEES のメモによると、受験者の教育履歴が EAC/ABET プログラムに基づいていない場合に受験資格評価は NCEES Engineering Education Standard に基づいて行うことになっており、それが 2011 年 1 月から施行される、とのことである。

実施されてみないと分からない面もありますが、海外受験者への門戸を開くものであって欲しいものです。

- Comity Applications (他州 PE のオレゴン州での登録申請)
 - Colorado 州で 8 時間の FE 試験 (州独自) 合格、Arizona 州で 8 時間の PE 試験 (NCEES) 合格、少なくとも 12 年のエンジニアリング経験、Colorado 州による FE 試験についての文書あり → Comity 申請承認
 - 申請者が提供した NCEES の記録には、California 州からの推薦を Illinois 州ボードが拒否したという情報、及び Arkansas 州ボードによる懲罰措置に関する情報が含まれていた → 懲罰措置は Oregon 州として懸念とはならないと判断、Comity 申請承認
 - New Jersey 州で 8 時間の FE 試験 (州独自) 合格、Washington 州で 8 時間の PE 試験 (NCEES) 合格、少なくとも 12 年のエンジニアリング経験、New Jersey 州による FE 試験についての文書あり → Comity 申請承認

「懲罰措置」が何だったのか、気になりますか…

Comity は我々が実際に米国で PE として業務を行うときには必要になりますので、議事を見守りたいと思います。

- Examination Applications (受験申請)
 - 外国での学歴において、数学と基礎化学の学習が 18 学期 (semester) 分不足、4 年間の土木エンジニアリング経験につき 4 名分の推薦 (reference) → 18 学期分の学習、又は更に 6 年間のエンジニアリング経験により受験資格を得ることが可能

日本の資格試験で、ここまでクリアに将来の受験資格に言及することはないような…

- CPD (Continuing Professional Development) Audit
 - 書類提出免除が不許可となった人が 1 名
 - 教育とプレゼンテーションを CPD として申請したが、証拠書類を求められた人が 1 名
 - 2011 年 6 月までの猶予期間が認められた人が 2 名
 - 最終的に書類を提出できなかったと見られる人が 4 名

前回の記事でも話題としましたが、Audit はいつ誰に当たるか分かりませんし、また Audit に当たるから、というのではなく、PE の義務として、普段から CPD を意識して継続学習に当たりたいものです。

さて、今回は会社の研修で、ハンガリーに行く機会を得ましたので紹介します。

この研修は 10 年 10 月にハンガリーで 1 週間、11 年 2 月に中国・深圳で 1 週間、6 月にドイツ・ケルンで 1 週間、というプログラムになっており、世界 12 カ国・地域から 30 名が参加して、マネジメントに必要なスキルを学習するものです。

こういった研修などに参加すると、いつも日本人の議論下手、討議内容を支配する能力の不足などを痛感します。欧米人、インド人、中東人といった人々は、恥も何もなく（適切でなくても）とりあえず意見を述べ、そこから自分のペースで議論を進めていく、という能力に長けています。

日本の外交なども、「とにかくちゃんとしたことを言わねば…」と考えているうちにどんどん議論は先に展開し、言いたいことは何も伝わらない、ないしは後になって何か主張すれば「今さら何を…」という印象を残すだけ、ということになっていないか、と危惧します。

国際化というと英語教育ばかりが着目されますが、本当に大事なものは議論する力。もっと言えば、強引に自分の主張を通すために必要なテクニックを磨くことも必要なのでは、と思ひ至ります。

写真はハンガリーでも観光スポット No. 1 に挙げられる「くさり橋 (Chain Bridge)」です。

夜はカップルばかりでした…

この橋は研修会場の目の前にあり、研修中の目の保養になっておりました。

ドナウ川を境に西に広がるブダ、東のペスト。これらを最初に結んだのがこのくさり橋です。

1849年に完成も、ドイツ軍によって破壊。1949年に再度修復したとのこと。



合格体験記

PE 登録体験記 1

1. 氏 名 : 阿部 賢史
2. 会員番号 : PE-0190
3. 登 録 州 : テキサス州
4. 専門分野 : Mechanical
5. 試 験 日 : 2010 年 4 月 18 日
6. 登録完了 : 2010 年 10 月 (準備開始 : 7 月上旬、申込み開始 : 7 月下旬)



[はじめに]

2010 年春に東京で行われた NCEES 主催の試験に合格し、10 月にテキサス州に州登録を完了しました。テキサス州登録はまだ少ないと思いますので、今後挑戦される方のために留意点を含め体験談を述べさせていただきます。

[受験に関して]

勉強方法などについてはこれまでの体験記に十分な情報があると思いますので割愛しますが、私にとって大変だったのはいかにモチベーションを維持しながら勉強を続けられるかということでした。うまくいった理由の一つとして、JSPE 会員の皆様との交流によって得られる生の情報が、PE 取得後の姿を具体的にイメージするのにとても役立ったことが挙げられます。

[なぜテキサス州か]

勤め先の本社がテキサス州にあり、リファレンスをお願いする方もテキサス州登録者であったため、必然的にテキサス州にすることにしました。日本からの登録者が少ないことや、人口が多く外国人受け入れにそれほど保守的ではなさそうなことも理由として挙げておきます。

[必要書類と留意点]

まずはテキサス州ボード (Texas Board of Professional Engineers ; 以下 TBPE) のウェブページを熟読し、申請手順を理解して必要なものを準備して行きました。

[1] 申請書類 (Application form)

SSN は試験同様日本の年金番号で大丈夫でした。

[2] 職務経歴書 (Supplementary Experience Record)

大まかな職務ごとにまとめ、それぞれに推薦者のサインをもらう必要があります。

- [3] PE 3名分の推薦（リファレンス）書類
各推薦者の方に依頼して、この推薦書類のテンプレートと[2]の職務経歴書のコピーを送り、記入してもらいます。
- [4] 申請費用（\$250）
カードも番号とサイン記入すれば使えるようですが、不安だったので郵便局で住所宛の国際為替を作成し（ただし手数料 2,000 円！）、同封しました。
- [5] エシックステストの解答用紙
WEB から問題をダウンロードして解き、解答用紙を同封します。TBPE のボードルールを参照しながら時間をかけて解答すれば大丈夫です。
- [6] 英語能力の証明書
ネイティブ上司の Verification もしくは TOEFL/TSE550 点以上が要求されています。TOEFL に関しては現在日本では新タイプの TOEFL iBT というテストに移行しており、採点基準が異なるため、TBPE に新テストでの基準があるのか問い合わせましたが、「会社のネイティブの上司に一筆書いてもらえばよい」との返答だったので、おそらく現状では TOEFL iBT では受け付けられないようです。私の場合ですが、外資系とはいえ身近にいるネイティブは常駐している英会話の先生くらいだったので、却下されたらまた考えようと思って出しましたが、意外とすんなり通りました。それなりに事情は理解してもらえているようです。ただ例えば外部の英会話学校の先生で大丈夫かといわれたらよくわかりません。
- [7] 英文の卒業証明書と成績証明書
英文証明書を大学から直接 TBPE および認定機関に送ってもらう必要があります。（所要の切手を貼って宛先を記入した封筒を送れば大抵対応してもらえそうです）
- [8] NCEES 認定審査機関による ABET 適合の証明書
NCEES の WEB または TBPE の WEB で紹介されている認定会社に英文の卒業証明書と成績証明書を[7]の要領で送付してもらい、申込書と費用を自宅から別途送付しました。郵便事情もあるためそれなりに時間がかかることを考慮する必要があります。
- [9] FE・PE 試験結果の転送
今回ここにかなりの時間と労力がかかりました。上記書類を送付し TBPE に到着すると担当者がアサインされメールが来るので、その方に NCEES に連絡してもらい、待つだけでよいはずなのですが、私は OSBEELS 主催の FE 試験を受けたため資格情報が OSBEELS にあり、それを NCEES 担当者に指摘されるまで気づかなかったため、NCEES 側でしばらく保留扱いにされてしまったようです。FE の情報は OSBEELS から送付される旨を説明し、再三確認のメールを送りましたが、結局 1 ヶ月半程度かかりました。なお、OSBEELS から資格情報を転送してもらうには OSBEELS 指定の申請書類（+事務手数料）を OSBEELS へ送付する必要があります。両方とも NCEES で受験された方は特に問題ないと思います。

[30日規定に関して]

最初の書類がTBPEに到着するとメールが届き、不備・不足がある場合その内容が指摘されます。そのメールに、到着日を起点として30日(+15日の猶予期間)以内にその不備・不足を補わなければ申請を却下するという一文が書かれているため、時間的なプレッシャーが相当かかります(文面の取り方によっては、その不備のあった書類ごとに30日ということなのかもしれませんが、かなり焦りました)。特にリファレンス書類や証明書関係は時間がかかるので、今後挑戦される方は後で慌てないよう依頼・申請のタイミング等を工夫して、到着時期をなるべく揃えることをお勧めします。

[承認後の手続き]

全ての書類が揃った後、内容に関する審査(1~2週間)が行われ、それが完了すると承認のメールが届きます。ここで終わりではなくもう一仕事あります。承認メールに添付されている所定の書類に顔写真とPEスタンプ(テキサスにある業者に通販で頼みました)の印影を記入し、承認通知の60日以内に送付(メール添付可)して完了となります。

[レスポンスに関して]

TBPE担当者のレスポンスは、上の規定もあるためかとてもよかったです。ワーキングアワーに合っていればその日のうちにならずレスポンスがある感じです。

[CPDに関して]

テキサス州では毎年の更新時に15hrのCPD(内1hrはEthics関連)が求められています。詳しくはWEBで確認してください。

[謝辞]

予定していた推薦人が入院するという不足の事態が発生し、急きょお願いすることになったにもかかわらず快く引き受けていただいた桧山PE、またNCEESとのやりとり(試験結果の転送)に関して相談に乗っていただいたJSPE西川理事、速やかな対応ありがとうございました。

また、勉強時間の確保や受験費用捻出など、家族の協力なしには今回のPE取得はあり得なかったことを付記させていただきます。多謝!

[あとがき]

PE取得を思い立ってから結局1年数ヶ月のタスクとなりましたが、久々の受験勉強や登録の手続きを通して得た達成感や、公的なライセンスを保有するという責任感が生まれ、取得前とは明らかに違う自分になったように思います。PE制度のよいところは、取って終わりではなく、これが新たなスタートになるというところにあると思います。今後は、社会的な貢献はもちろん、身をもって活躍の実績を示していくことが、日本人PEとして果たすべき役割のひとつであるということを常に意識し、あらたなスタートを切りたいと思います。

PE 登録体験記 2

1. 氏名 齊藤 博之
2. 会員番号 PE0189
3. 登録州 Washington 州
4. 専門分野 Mechanical
5. 登録まで

昨秋の試験を受験し、合格通知が届いたのが1月初旬でした。HPを見て、その後の登録が大変なことはなんとなく理解していましたが、合格祝賀会まで特になにもすることなく時間が過ぎてしまいました。

合格祝賀会に出席したところ、登録するなら Washington 州が比較的登録しやすいとのこと伺い、ターゲットを Washington 州にしました。

しかし、社内に PE は一人もいないため、Engineer Reference での 3 人の PE が必要とこのころで、まいったな、といった状態でそのまま忙しさにかまけて 7 月まで経過してしまいました。

ところが 7 月の会報での登録体験記を読ませて頂いたところ、Verifier も Engineering Reference も日本の技術士でも構わないとのことだったため、体験記を参考にさせて頂いて申請を開始しました。(最初にきちんと確認しておくべきでした。)

まず、申請書を記入し、Engineering Reference は上司(技術士)、先輩(技術士, APE)と先輩(技術士)にお願いしました。また、Verifier については、異動前の上司 (技術士, APE) にお願いしました。

Work Experience については、「自分の携わってきた仕事の内容」「自分がなにをしてきたか」「そのなかで特に自分が大切だと思ってやっていること」をそれぞれについて記入して行きました。

8/3 に、DIL に E-mail で①申請書のフォーマットについては、by comity でいいか?②支払方法については、国際郵便為替でいいか?③Engineering Reference については、日本の技術士か APE でもいいか?④Verifier については、日本の技術士か APE でもいいか?と質問を送ったところ、即日返信があり、それぞれ OK との回答を貰いました。

それを受けて、8/6 に以下のように書類を発送しました。

DOL: 申請書 1~3p、国際郵便為替\$110、卒業証明書、修了証明書

NCEES: 申請書 7p、FE 合格証明書コピー、PE 合格証明書コピー

また、8/8 に Verifier に記入してもらった申請書 4~6p を DOL に送付して貰いました。

8/13 に NCEES より、Washington Board に送ったとの E-mail があり、8/17 に DOL より、Law & Ethics exam の ID と password と Verifier の書類がまだ届いていないとの E-mail が届きました。

翌 8/18、19 の 2 日間で Law & Ethics Exam を実施したところ、試験送信から 10min 程度で DOL から E-mail で approve されたとの結果が届き、かなりびっくりしました。

その後、2 週間程度で 1 枚の Certification が届きました。意外としょぼい紙だなあ、と思っ

ていたところ、11月26日に立派な賞状が届き、ようやく登録ができたのか、と実感が沸いてきました。

6. 最後に

今回の登録にあたり、いろいろとアドバイスを頂き、JSPE事務局及び会員の皆様にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

PE 試験合格体験記 1

PEN0052 森口智規

<PE 資格との出会い>

私が初めて PE 資格について知ったのは、1998 年から 3 年間、アメリカ、ノースキャロライナ州で駐在していたときでした。当時、技術者として駐在していた私でしたが、アメリカでは PE 資格を持っていないものは名刺に「Engineer」と記載してはいけないと知りました。帰国後、大学研究室の同窓会で同級生（国立大学にて教員）が JABEE 認定を取るために自ら FE 試験を受けたことを聞き、PE 資格に対する憧れもあり、自分も取ってみようと思ったのが PE 資格取得へ向けた始まりです。当時、技術士補を受験した直後だったこともあり、学習した知識が即利用できそうというのも FE 試験受験に向けてのハードルを下げてくれました。

<鬼金関西セミナーへの参加>

FE 試験合格後、PE 資格取得に向けて、推薦人探しをどうしようかと悩んでいたところ、「PE 資格を持っていないか」と逆に社内で問い合わせを受け、同じように推薦人を探している社員から鬼金関西セミナーの活動について教えていただきました。そこで、故大久保先生にお会いし、その人間味あふれるお人柄と PE、PMP であることへの誇りと責任感に感銘を受け、2006 年 4 月から PMP 資格のための鬼金セミナーに参加させていただきました。鬼金セミナーのすばらしさはその内容が PMP 資格のためのセミナーに留まらない活動にあります。業種を超えたエンジニアが集まり、月 1 回、技術的な知見に裏打ちされた雑談は毎回大変刺激的で、そこで得た人脈は何にも代え難い財産となっています。まさに他業交流技術サロンといった風です。鬼金関西セミナーの諸先輩方から「推薦人については心配ない」とおっしゃっていただき、後は PE 試験に合格するだけ…と、ここからが長い道のりでした。

<PE 試験受験に向けて>

2005 年頃には「Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam」を購入し、



鬼金の PE 試験対策セミナーや先輩 PE から勉強方法についても十分アドバイスを頂き、どうしたらいいかといった迷いはまったくありませんでした。問題は自分のやる気だけです。2006 年に Reference Manual 12th Edition の販売を知り、手持ちの 11th Edition に比べて約 100 ページも少ないことが判明。「勉強するなら少ない方が…」と打算的に購入即決定。届

Fig.1 各章ごとに冊子化

いた本にびっくり。なんとページ数の削減内容は巻末の問題のみ、掲載内容はほぼ同じ。自分の浅はかさを反省しつつ、先輩 PE のアドバイス通り、通勤時に読みやすいように各章ごとに分けて冊子を作りました。(Fig. 1) 家族に対して、受験することを宣言したものの、それから約 2 年間ずるずると…。失敗の最大の理由はいつ受験をするかを明確にしなかったこと。「一通り Reference Manual が読めたら受験しよう」というのがそもそもの間違いです。明確な受験時期も決めずに読めるはずありません。心入れ替え、2009 年 4 月、今度は「2010 年 4 月に受験」と目標を明確にして、再スタート。通勤電車で Reference Manual をとりあえず見る。読むのではなく見る。そして、だいたい何がどこに書いてあるかを把握。大きな方針転換は「まず Reference Manual を読む」ことから「とりあえず実際に問題を解く」ことに変えたことです。問題を解くことで一体どんな知識が必要かも見えてきます。何よりも問題を解くほうが達成感もあり、自分には合っていたように思います。更に PE 試験に向けて、2009 年 10 月の FE/PE 試験に FE 試験のプロクターとして参加。試験の流れや雰囲気を実体験することは、本番への気持ちの準備と PE 試験に向けた気分転換とモチベーション維持に大変役立ちました。試験直前のプロクター募集には是非、応募することをお勧めします。

<学習に使った参考書、問題集>

学習に使った参考書と問題集は、NCEE や Amazon で購入しました。学習を進めていくうちにどうしても知りたい経験則が頻出。ギアの歯面強度や座屈式などの係数などが載っている技術書「Shigley's Mechanical Engineering Design」は特にお勧めです。(Fig. 2) 問題集に出てくる公式はこのテキストではほぼ確認できます。しかも SI unit 版ということで、通常約 2 万円程度する Shigley 本が約 7000 円。内容的にも、とても充実しており、大変興味深い内容です。(ちなみに SI unit 版ということでしたが、図表で使われている単位はヤード、ポンド系です。どこが SI 単位なのかは疑問です。) 参照した公式は「Quick Reference for the Mechanical



Fig.2 お勧め本

Engineering PE Exam」に追加で書き込んでいきました。(Fig. 3) 私の場合は試験当日もこ



Fig.3 Quick Reference+ α

の「Quick Reference+ α 」(α は試験勉強中の書き込み部です) だけで問題を解くことが出来ました。(たとえば格好がいいですが、正直なところ「Quick Reference+ α 」で解ける問題しか解けませんでした。) 今回の私の受験勉強では、問題を解くことを第一に、多くの問題にあたる作戦でした。そのため、試験直前にも新たに問題集がほしくなって購入を試みたのですが、既に在庫切れ。試験直前は問題集もなくなります。問題集のお買い求めはお早めに。そして、もう 1 つ、最新の受験情報は確認が必要です。受験科目(選択科目)名が変わっているということもあります。私の場合は問題集購入の際、選択しようと思っていた科目の問題集が絶版になっていることで初めてそのことに気づきました。くれぐれもみなさんはそんなことのないようにご注意を。

<試験前日>

試験前日に会場の下見をしておくことも大変重要です。私の場合は、試験会場が明治大学だったのですが、試験前日の下見で建物を間違え、博物館に入りそうになりました。試験当日、重たい荷物を持って道を間違えるのは大変辛いです。お昼ごはんの準備が必要です。必ず下見はしておきましょう。

<試験当日>

当日朝の受付から FE/PE 試験で厳密に規定されている持ち物管理まで、まったく戸惑うことなく受験することが出来たのもプロクター経験の賜物です。とはいえ、良いことばかりではありません。試験開始前の教室で、持ち物を不透明なプラスチック袋に入れている人や腕時計を机の上に置いている人を見て、つつい注意しそうになる自分に、思わず、「プロクター経験の弊害？」と苦笑い。とはいえ、試験前にプロクター経験をさせていただけたことは本当に良かったと思っています。

<ありがとうございました>

今回、PE 試験合格に至る中で、多くの皆さんのアドバイスや励ましのお言葉をいただき、本当に感謝しています。これまで色々ご指導いただきました鬼金の皆さん、本当にありがとうございました。引き続き PE 登録に向けて、ご協力、ご助言の程、宜しく願いいたします。

最後になりましたが、故大久保先生のご冥福をお祈りいたします。

PE 試験合格体験記 2

1.氏名：渋谷高広

2.会員番号：PEN-0057

3.専門分野：Mechanical

4.試験日：2010 年 4 月 18 日

5.使用した参考書・問題集

・ Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam

・ Practical Problems of the Mechanical Engineering PE Exam

・ Mechanical Pe Sample Examination

・

6.試験当日持ち込んだ図書

上記テキスト、問題集及びこれらの単位換算表、Appendix、Index、模擬試験模範解答のコピー（自己製本）、Machinery's Handbook（Industrial Press 社）

7.体験記

1)試験準備



4月のFE試験合格した翌年の4月にPE試験を受けましたので、実質半年以上の期間はありましたが、本格的に勉強を開始したのは3か月前。それまではテキストや問題集の調達と試験問題の出題傾向の調査などをしていました。また、朝5時起きができるよう、徐々に起床時間を早めるというようなことも地道に行いました。

基本的にFE試験でも勉強した範囲（Mathematics や、Economic、Ethics など）は後回しにして、Mechanical に関係する分野をほぼ2か月丸々かけて勉強しました。1か月切ったところで苦手なHVACを集中的に勉強し、記憶が新しいところで2週間前くらいに模試を実施。残りの期間は苦手問題の再チェックと持ち込み資料の綴じ込みを行い、問題から模範解答へできるだけ早くたどり着けるよう自分が使いやすい工夫もしました。

この期間は基本的に朝5時起き、会社帰宅後、夜0:00頃まで勉強するというサイクルでした。途中からペースが遅れていることに気が付き、昼休みなども勉強するためにテキストを毎日会社まで持って行って持ち帰るということもしましたが、重くて大変だったのを覚えています。

2)試験当日

問題を解くときはすぐに選べるもの以外は参考書やノートなどの関連分野の記述を探すことになるので、検索性は非常に重要です。その上で問題を解くので、普段から検索性を意識して勉強をしておくと慣れます。勉強時点からそれを意識してやるのがいいでしょう。

糖分補給用にスニッカーズなどを午前・午後用に1本ずつ準備して、2時間くらい経ったところで補給するのが私のFE試験からのお約束なのですが、今回はPMの試験が1時間経過した時点から頭が疲労で朦朧としたためそこで摂取。ところが暫くは頭の回転が鈍ったままで30分くらい問題をやっていたため、このタイミングで解いた問題は記憶すら薄くきちんと解けていたかどうかまったく自信がなかったため合格通知が来るまでは不安でした。

3)試験後

試験中のハプニング(?)のためか、FE試験時にはなかった漠然とした不安感が付きまとっていたため合格通知が来るまではモヤモヤとしていました。帰宅したときにEMSの封筒が届いていた時点でよしっと思いましたが、開封して証書を見た瞬間にはやはりうれしくて思わず叫んでいました。これまで受けた試験の中で一番嬉しい合格だったかもしれません。

8.今後の予定

WashingtonのDOLより12月16日付でPE登録完了する旨連絡が来ました。この体験記が配布される頃にはPEの登録証も届いていることでしょう。登録できたら、一度はWashingtonを訪れて、PEリングを作ってみたいと思っています。

PE 試験合格体験記 3

PE 試験体験記 2010/09/17

1. 氏名 田島 裕一
2. 会員番号 PEN-0054
3. 専門分野 機械工学
4. PE 試験挑戦回数 1回
5. 動機



入社して 10 年、日々の業務に追われている自分。海外メーカーとの打合せで、あなたは PE ですか？と聞かれたことで、PE を調べ始める。HP を検索し、Engineers' Creed “As a Professional Engineer, I dedicate my professional knowledge and skill to the advancement and betterment of human welfare,,,,,” に共感、海外と提携機会も増加することを考え、PE 受験を決意。

6. 経緯

2008/10	技術士 1 次試験受験（工学基礎の見直しに良かった）
2008/12	JSPE 関西の PE セミナー参加
2009/4	FE 試験受験（工学院大学）
2009/8-2010/6	関西鬼金セミナー参加
2010/4	PE 試験受験（明治大学）

6. 勉強のスタンスと参考書

仕事で時間があまりとれないことと、約 6 割で合格 ⇒ 要点を絞ることが大切と判断。問題演習中心（繰返し）でポイントを把握し、必要に応じて Reference Manual でフォローする。使用した参考書は以下の通り。

- (1) NCEES PE sample Question
- (2) PPI 6-minute solution
- (3) Kaplan Publishing PE sample exam

(3) の書籍は amazon で 3 ドルで購入。(2) の 6-minute が約 60~70 ドルに対し、(3) は過去の合格体験記等で聞いたことはないがお買い得。ネットの記載ミスかと思ったが、C/C 決済で 3 ドルであった。回答の間違ひは多少あるものの使える。

7. 勉強期間と場所

1~4 月の約 3.5 カ月

平日	約 0.5~1h	通勤電車内	バス停近くのマック
週末	約 3~4h	図書館	

8. 試験を振り返って

FE, PE の受験を通して、工学の復習を行なうことができ、仕事への刺激になった。日々の仕事の中でも技術の基礎をしっかりと見つめることの大切さを再認識した。また、関西の鬼金セミナーをはじめ JSPE の皆様との貴重な交流機会を得ることができ、大変ありがたく、今後も交流させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。今後は、登録に向けて一つ一つ頑張りたい。

追伸：緊張のためか試験前日は FE,PE ともほとんど睡眠がとれず、試験中（特に午後 3 時以降）はきつかった。8 時間の試験は体力的にきついので、今後受験される方は、リラックスして受験して下さい。

PE 会員のためのページ

私の PDH audit 体験

CPD Audit は突然やってきます

あれは確か、お盆のころだったと思います。

OSBEELS から受領したレターを紛失してしまったので、正確な日付は分からないのですが。会社がお盆返上で研修を行ったので（怒）、横浜へ出向いて帰宅したときだったと思います。確か家族は帰省中で、机の上に郵便物が残されておりました。

そのうちの一通が OSBEELS から。

5 月に更新手続きは行っており、新しい登録カードも受領していたので「???」。

でも開封するときには、予感がありました。

やはり…

これが噂の…

レターの日付は 7 月某日だったと記憶しています。

しかし証拠書類の提出期限は、確か 8 月 26 日とか、27 日とか…

まずは OSBEELS の事務の怠慢さ（7 月発行のレターがお盆の終わりに届く？）に怒。

とにかく猶予時間は 10 日位しかない。

私は普段から、書類の整理がよくないので証拠書類を捜し出すのにまず一苦労。

そして、指定期間（2008 年 7 月～2010 年 6 月）で 30 時間分揃うか…でドキドキ。

まあそれなりに、JSPE のいろいろな活動にマメに参加していたので、いけるだろうとは思っていましたが、集めてみると結構ギリギリ…（汗）。

今回はこのようなことのないように、と固く誓いました（きっとまたバタバタしそうですが）。

そして OSBEELS に、所定のフォーマットを記入したもの（下をご参照下さい）+ JSPE 発行の PDH 証明書 30 時間分をスキャン → メール送信。

本当にメールでよいかどうか分からなかったのですが、一応「問題あれば連絡を」と書き添えましたし、現在のところ OSBEELS ウェブページでもステータスが「Active」になっており、ボードの議事録でも問

題児として議事に挙がってはいないので、大丈夫と思っています。

どうぞ皆様、JSPE の活動にマメに参加しましょう。

Audit に当たって、大慌てで上司などに相談することのないように…



If you need more than one page, you can reprint or copy this page.

Date of Activity	Sponsoring Organization and Location	Description of Activity	Type of Activity	PDH Units Awarded
9/8/2008	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Scope Management	Active participation in professional society	4.00
1/10/2009	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Human Resource Management & Project Communication Management	Active participation in professional society	4.00
2/7/2009	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Risk Management	Active participation in professional society	4.00
3/7/2009	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Procurement Management	Active participation in professional society	4.00
1/9/2010	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Quality Management	Active participation in professional society	4.00
4/3/2010	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Procurement Management (PMBOK Guide 4th Ed.)	Active participation in professional society	4.00
4/10/2010	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Visiting Tour to Gas Science Museum and LNG Plant in Osaka Gas Co.	Active participation in professional society	2.00
5/15/2010	Japan Society of Professional Engineers, Japan	Project Integration Management (2)	Active participation in professional society	4.00

Recent Totals	Total PDH Units for Biennial Renewal Schedule		Carry Over PDH Units from the Previous Biennial Renewal Schedule (OAS 2008-2009)		Grand Total PDH Units Acquired to Obtain Active Status		
	From Date (Mo/Yr)	To Date (Mo/Yr)	From Date (Mo/Yr)	To Date (Mo/Yr)	From Date (Mo/Yr)	To Date (Mo/Yr)	
	07/2008	06/2010			07/2008	06/2010	
	30.00		0.00		30.00		
Print Name				Registration Number(s)			
Yu Suzuki				64965PE			
Signature				Date (Mo/Day/Yr)			
				12/2/1969			

海外からの連絡

ロシア生活事情

PE-0188 野村 幸正



私は、本年8月より、ロシア連邦カルーガ州に自動車塗装プラントのプロジェクト責任者として長期出張しています。プロジェクトは8月から工事が開始し、2012年1月までの予定です。

BRICsの一角をなすロシア非常に活気があり、モスクワ市内は人口が集中し至る所で渋滞が発生しています。多くの人が車を所有していることの現れだと思えます。ソ連崩壊後の食料難のイメージは全くなく、お金さえあれば何でも手に入る環境です。モスクワ郊外の環状路沿いには巨大なショッピングモールが数多く建設されており、週末になると多くの人で賑わっています。食料品の価格などは、日本円に換算するとほぼ同等か輸入品などは高い位です。ロシアの方々の給与基準から考えると非常に高価に感じられます。



私が滞在しているカルーガ市はモスクワから南に200kmほど行った所にある、人口30万人程度のカルーガ州の州都です。日本で言うところの軽井沢のような雰囲気のある町です。カルーガはソ連時代から工業都市として栄えてきた歴史があり、モスクワからカルーガへの高速道路沿いには、サムソン、韓国ロッテ、VOLVO、フォルクスワーゲンの工場などが有り、建設中のプロジェクトも多く見られます。



市内には、ロケット工学・航空宇宙工学の父と呼ばれるツィオルフスキーを記念した航空宇宙歴史博物館があります。彼は、カルーガで長く教師として暮らし、研究所を設けたそうです。私も一度訪問しましたが、比較的小さな博物館にしては、ガガーリンが使用した帰還船のレプリカや月面探査車のレプリカなど、モスクワで展示しても遜色ないようなものがありました。博物館の屋外には実物大のボストークロケットが展示されています。ガガーリンを宇宙に運んだボストークロケットを間近に見て感動しました。博物館内には、プラネタリウムがあり、ロシア人観光客に混じってプラネタリウムを見ましたが、言葉が全くわからず天井に映し出される星だけを見ていました。ロシア語がわかればもっと楽しめたと思いますが、残念です。



ボストークロケットと共に



プラネタリウム内

現在、ホテルの一室を長期契約し住まいとしています。ホテルとは言っても民宿のような所のため、洗濯、食事などに非常に苦労しています。ホテルには別経営のレストランが併設されていますが、メニューは当然ロシア語のみ、外国人向けに作られていないため、メニューを指さして頼んでいます。口に合うメニューを覚えておき、毎回ほぼ決まったメニューになってしまうのが辛いところです。近くにレストランがない上、あったとしてもメニューが全く理解不能なため、食生活の面で苦労しそうです。キッチンの付いたサービスアパートなどが有れば、もっと暮らしが良くなると思います。洗濯は、袋に洗濯物を詰めてレセプションに持って行くと、その目分量で値段が決められ、現金で直接支払います。1袋150ルーブル（500円弱）というところが相場です。



ホテル外観（ホテルというより民宿）



室内ベッド（TVあるが、使用方法不明で見られない）



ユニットシャワー

(私はデラックスルームなので、少し大きいですが、スタンダードルームはもっと狭いらしいです)



居間

(冷蔵庫、ティーカップが備え付けです。インターネットケーブル差し込み口があります。水飲み器は共用のものがあります。)

10月に入り、初雪が降りました。今年のロシアは日本でも報道されたとおり、異常に暑い夏でした。その影響か、例年に比べ寒くなるのも遅いようです。いよいよ長い冬の始まりです。

ホテルの周りを散策した結果、歩いて15分位の所に中華兼日本料理レストランを発見しました。中国人のコックさんが居るらしく、本格的な中華料理の味が楽しめます。現在、ロシアでは日本食がブームでカルーガの町にも4件ほど日本食レストランがあります。日本食と言っても、寿司がメインです。日本と比べるととても高価で、日本人にとってはわざわざ日本食を食べに行こうとは思えません。やはり外国に行くと、安心して食べられるのは中華料理です。何カ所が海外へ行きましたが、ほとんどの国で中国人経営の中華レストランがあります。この辺にも、中国パワーを感じさせられます。



カルーガで発見した中華レストラン

9月にモスクワから1000kmほど行ったサマラという工業都市へ出張しました。ほんの少し南に行っただけですが、かなり暑いのです。なんと日中の気温が20℃超えです。ロシアと一口に言っても全く気温が違うことが実感できました。やはりモスクワ周辺は寒いのです。サマラはソユーズロケットやツポレフ154を製造している工業都市です。近くにはラダやボルガと言ったロシアの自動車産業が集中しているエリアもあります。今回初めてツポレフに乗りました。Tu-154です。驚くほどシンプルに作られている上、無駄のない設計がされていると感じました。ロシア国内線専門で海がないという理由なのか、なんと救命胴衣が座席の下にありません。その代わりに座席の下にはシートを持ち上げて荷物が収納できるようになっています。居間はツポレフ200シリーズが出ているので、既に古い機体ですが、ボーイングに比べて短距離で離陸出来るような感じがしました。日本では乗ることが出来ない機体なので、大変良い経験が出来ました。



ホテルから見たサマラの町並み

私の滞在はまだ始まったばかりです。ロシアは他のヨーロッパ諸国と比べても社会システムが大きく異なり、仕事、生活の面でも戸惑うことが多い国です。しかし、多くのビジネスチャンスが転がっているという印象を受けます。日本企業にも多くのチャンスがあり益々多くの日本企業が進出してくると思います。ロシアでのプロジェクトの成功は、複雑な社会システムを早く理解すること、ロシア語、そして人脈というのが現在までの感想です。
(注：本文の体裁は、編集部のほうで再編集させていただきました。)

PEN-0040
三菱重工業（株）
藤田 一作

例年になく暑い夏でしたが、JSPE会員の皆様のご協力もあり、2010年7月に無事ワシントン州のPEになることができました。

今後益々グローバルに活躍できるエンジニアになるよう決意を新たにしたところであります。

グローバルといえば、地球温暖化が世界的な問題になって久しいですが、解決策の一つとして、二酸化炭素排出量の少ない原子力発電所が脚光を浴びています。特に最近では、原子力カルネサンス時代とも呼ばれており、IAEAによると現在世界中の原発は436基(370GW)(注：2009年時)稼働中ですが、2030年までに585GW~1264GWまで増加されると予想されています。中でも中国では政府主導で原発建設計画を推進しており、今後10年間に100基以上の原発が新設されると言われています。

アメリカやヨーロッパも原発が推進されていますが、ローカルレギュレーションが厳しいことや、地域住民の反対もあり、建設にたどりつくまでに時間がかかります。一方、中国はとにかくスピードが速く、当面は中国を中心に原発が増設されていくこととなります。ただ、中国の市場に参入するのは日本企業単独では難しく、中国企業と組んで参入するのが一般的です。

中国企業は最新鋭の設備をどんどん投入しており、うまく使えば日本国内の工場よりも効率的に、人件費も

安く自社製品が製作可能となります。どこの企業も考えることですが、技術の核は手元に置いておき 製造アウトソーシングだけ中国企業に・・・というのが理想形ですが、中国人はとてもしたたかで、いつのまにかオリジナルメーカーの技術を吸いあげ、立場が逆転してしまう例もあります。やはり双方が提携の目標を共有し、うまく付き合っていかなければいけません。

そんなこんなで今年初めからちよくちよくとハルビンという街に出張しております。自分の仕事は原子力発電所向け熱交換器の設計・開発ですが、中国市場で売れる製品を作るにはどうしたら良いか？について、あーでもない、こーでもないでディスカッションしています。

ハルビンはロシアの国境近くなので寒い街ですが、毎年1月初めから2月終わりころまで氷祭りが開催されます。ハルビンの氷祭りは、世界三大雪祭りのひとつに数えられており、開催される会場は松花河の河川敷で東京ドーム9個分の敷地内に高さ40メートル程の塔を中心に大規模な建造物が展示されています。下名も協業先のスタッフに連れられて、氷点下30℃の世界を体験しました。結構高い入場料（日本円で3000円）を払いましたが、30分見て歩くのが限界でした。

今は尖閣諸島の問題等、いろいろと難しい局面を迎えておりますが、中国は無視することができない存在ですので、これからの原子力市場発展のため、なんとかWin-Winの関係を築いていきたいところです。 了



ハルビンの氷祭り

脱ガラパゴス！ 内にも外にも国際化を！

PE-0022 植村大輔

早いもので私が Mapletree Logistics Trust Management のシンガポールの本社に勤務して、約 1 年が経ちました。

この間、アジア 8 ヶ国（日本、韓国、中国、香港、ベトナム、シンガポール、マレーシア、インド）の建設プロジェクトの総責任者として、まさしく東奔西走してまいりました。この 1 年で海外出張は計 17 回に及びました。

こうして日本を外から眺めると、日本のエンジニアリング業界の抱える問題がよく判ってきます。

シンガポールで設計会社とのお付き合いが多くあります。その多くはシンガポール以外にもアジアのほとんどの主要都市にオフィスを構えています。ところが、日本にだけオフィスが無い、という会社が実に多いことに

驚かされます。担当者に「なぜ日本にだけオフィスを持たないのか」と尋ねると、大抵の場合「日本にも進出しようとしたが、閉鎖的で入れなかった」という返事が異口同音に返ってきます。ある人は「invisible walls」という言葉を使っていました。

近年、日本の経済が低迷し、その打開策として積極的に海外に出るべきだという意見をよく耳にします。もちろん PE 保有者として、前 J S P E 会長として、それを否定することは全くありません。しかし、同時に日本の国内にも海外の企業をもっと受け入れて、世界レベルで国内市場を活性化していく必要を感じさせられます。日本の技術レベルの高さはどこの国でも認められていますが、肝心の国内でそれを外国の企業やエンジニアにアピールできないとその技術レベルの海外への普及は望めないと感じさせられます。

実際、中国でお付き合いのある某中国系ゼネコンは、「日本の高品質と中国の低価格を持つ会社」という触れ込みで中国で売り上げを伸ばしています。この会社の中国人社長は、かつて構造工学の教授であった頃、日本の建設現場を視察に行き、その技術の高さに感銘を受け、この会社を数年前に起こしました。この会社で日本の技術者が正社員として中国で活躍されています。

古い事例を挙げますと、今から約 150 年前、浦賀に来航したペリー総督は、そこで鍛冶屋や籠屋を見てその技術の高さに感銘を受け、「高い技術を持つこの国は将来立派な国家になるだろう」と語ったのは有名な話ですね。

このように日本の生産現場を外国人、外国企業にも開放し、見てもらうことで、日本の海外展開が期待できるわけです。国内の門戸を閉ざしては其の勢いもそがれてしまうと感じさせられます。

同じことは企業そのものだけでなく人材交流にも当てはまります。私は現在部長級の職ですが、この会社に縁もゆかりも無かった外国人である私をいきなり部長職で採ってくれた懐の深さにいまだに感謝の念が絶えません。そしてその感謝の気持ちがあるからこそ、日本で得た技術をこの国にも積極的に展開していきたいと強く感じさせられ行動しています。日本の企業もこのように外国の技術者をもっと国内で採用し、外国の技



シンガポール最大のショッピングモール” Vivo City”にて
(設計は伊東豊雄氏、施工は某日系ゼネコン、当社の資産です)

術をもっと取り入れるようにすればさらに高い技術が磨かれていくものと思われます。いや、そもそも、このシンガポールでは外国人を意識して集めているのでなく、枠を取り払った結果外国人が多くいるというのが正しい表現でしょう（私の上司もオランダ人、周囲も多国籍です）。そこまでいけば日本も良い方向に変わっていくでしょう。

最近、「TPP」「EPA」「FTA」といった言葉が新聞記事をにぎわせていますが、いずれもヒト、モノ、カネが自由に、しかも「双方向」に動けるようにするためのものです。日本の内なる開放は必然の動きともいえます。

PE資格を有しているメリットをより積極的に生かしていくには、海外に出ると同時に、国内で海外の技術者と同じPE資格の元で切磋琢磨するのが有効であることは論を待ちません。

法整備等取り組むべき壁は多くありますが、まずは受け入れようという一人ひとりの気持ちが第一、と思います。

脱ガラパゴス、内にも外にも国際化を進めていきましょう。

会員からの投稿

「LEEDとは？」

会員 No. PE-0157

吉田 亨

JSPE 西川さんより原稿を頼まれましたが、前回の小田さんより推薦頂いたということで喜んでお引き受けしたものの、次は誰を推薦すればよいのだろうということが頭をかすめますが、まずは小生の原稿を完成させましょう。



Leadership in Energy & Environmental Design

LEED (Leadership Environmental Energy Design) という米国のビルの環境性評価の制度について紹介したいと思います。JSPE 関西では講習会を行いました。

LEED は米国グリーンビル協会 (USGBC) がビルの環境性能のグレードをプラチナ、ゴールド、シルバー、サーティファイという4段階で環境性評価をしています。この認定をとることで省エネルギーが実現できるのですが、併せてビルの資産価値が上がり、テナント家賃を高く取れるということで、投資目的でも不動産業界などに広く受け入れられています。

また、米国企業は LEED 認定のビルに居住することで環境協力を説明します。それで海外に進出する米国企業を中心に LEED は世界中に普及してきており、中東では大きなプロジェクトを LEED GOLD と義務付けたり、カナダ、インドでは USGBC の支部もできたりしています。また米軍は新しい施設を LEED Silver 以上にすることを目指しています。

LEED は世界中で 27,000 件が申請され、すでに 5000 件以上が認定されています。

一方、日本国内ではどうでしょうか？申請件数が 12 件で取得されたものがたった 7 件です。(2010 年 11 月末 USGBC ホームページより) 申請の半数は米軍ですし、取得はすべて米国系企業で LEED のインテリア部門関連です。

弊社でもグローバル化の一環として社内で LEED の勉強会をもちました。また USGBC の協賛企業になりました。協賛企業は世界で 17000 社以上あるそうです。米国の建材メーカーなどが多数いるようで、その材料を使うと LEED 認定ポイントが取れるというメリットがあるようです。勉強会は 1 年以上続け、LEED 認定の資格 (Accredited Professional) も取ろうということになりました。ただ今、小生含め 7 名の合格者を出しています。この資格は、世界中に 15 万人いますが日本にはたった 80 名程度しかいません。試験は PMP と同じく Prometric で受験可能です。

続いて弊社自慢の省エネビルを LEED の既設部門での認定取得を目指して、ただ今、申請中です。ただし、省エネ評価の計算が米国式か？カーペットなどの建築材料が USGBC 認定の仕様か？便器が超節水型か？ビルが禁煙か？など、認定基準が日本基準とかけ離れ申請基準の証明に非常に苦慮しております。

元々、日本にはビルの環境評価性として、CASBEE (Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency) という評価制度があり、各自治体も義務付けをおこなうなど普及してきています。CASBEE と LEED の評価項目と比較すると半数程度は似ていますが、正式な認定をとるためには、米国の計算方法、米国材料を使わねば、簡単に認めてもらえそうにありません。弊社より直接 USGBC に LEED 認定の内容について聞いてみましたが、USGBC からは「日本には CASBEE があるから、CASBEE でいいじゃないか？」と言われてしまいました。ここでも日本のガラパゴス化が進行しているということでしょうか？

もし会員の方で LEED について何かお知りになりたいのであれば、知りうる範囲でお答えします。皆様と情報を共有できれば幸いです。よろしく申し上げます。



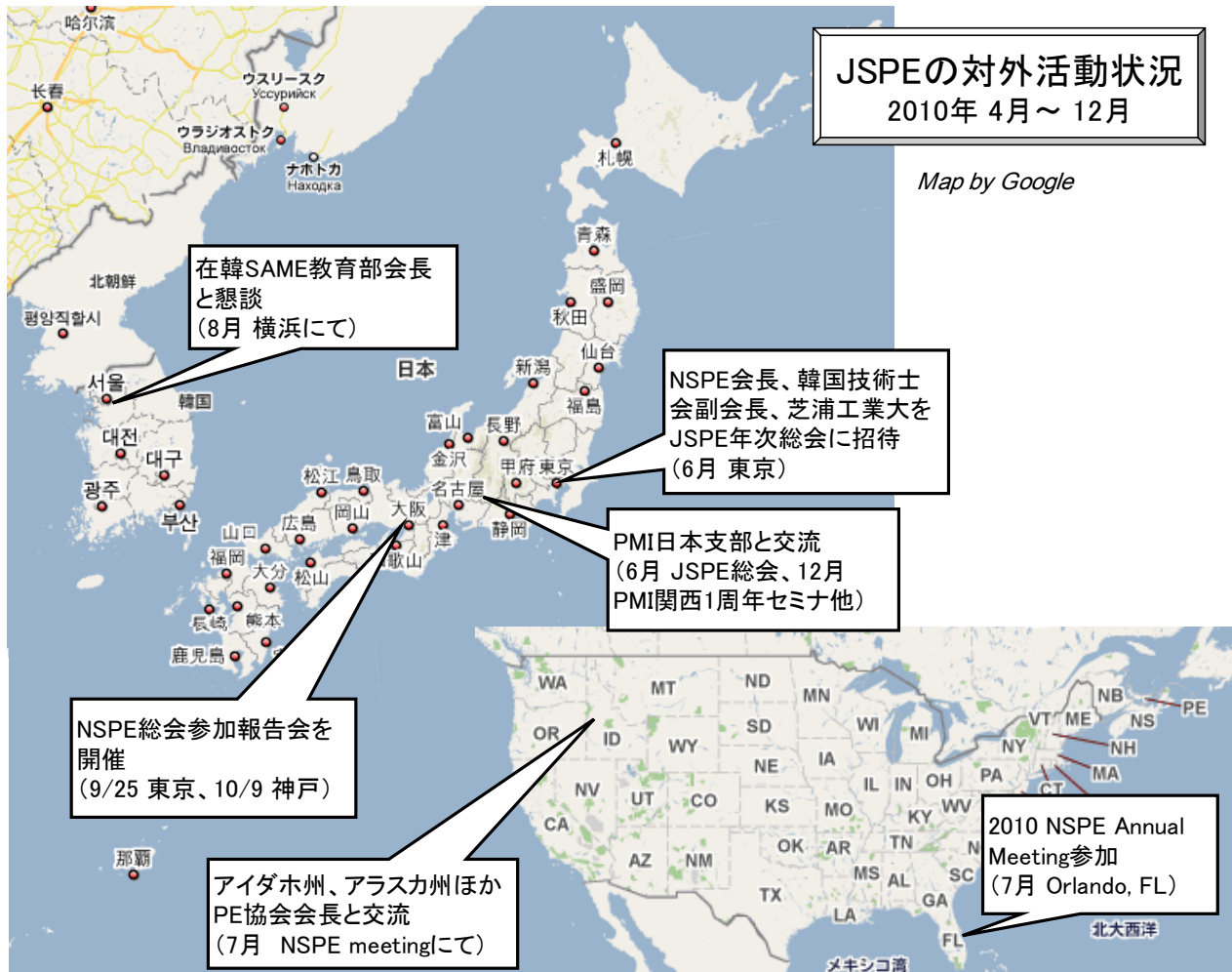
LEED AP 認定証

理事会ニュース

○ 渉外部会報告

4月以降、色々な行事が重なりマガジン7月号、10月号での定期報告を怠っておりましたので、9ヶ月分まとめて渉外活動を報告いたします。

理事(渉外) 川村武也



今年はJSPE設立10周年とも絡めて、国内外関係団体との交流を様々な行いました。フロリダでのNSPE総会には土屋会長と2人で出向き、日本人PEに対する割安な国際会員資格の確認という収穫を得ることができました(このお知らせを次のページに載せていますみなさん是非NSPEにも入会下さい)。また初めての試みとして帰国後報告会を東京と神戸の2場所で開催しました(教育部会とタイアップ)。来年6月4日のJSPE総会には馴染み深きオレゴン州出身のハーディNSPE会長をお迎えする予定です。

またこの一年は韓国の存在感を様々な場面で感



JSPE総会にて(東京)

じました。報道等でもみなさんご存知のとおり、韓国は官民あげて輸出立国を掲げ各国での大型インフラ工事受注に成功しており、KPEA(韓国技術士会)が窓口になっての韓国人PE資格者増加策もその国策の一環です。PE資格の国内展開では一日の長である日本も今後更なる発展に備えるためには、アメリカはもとより韓国との交流も重要であります。

最近別な情勢においても日米韓の連携が国の命運を握るようになっておりますが、来年もアメリカ、韓国との交流と連携強化に意を払っていききたいと思います。

渉外部会では、PE制度を日本に定着させ、またPE/FE会員の交流の場を全国に広げるため、ご要望があれば、随時どこへでもお伺いします。ご要望などありましたら external.2007@jspe.org まで。



NSPE総会にて(フロリダ)





NSPE にも入会しませんか？



JSPE は設立間もない 2001 年 9 月より NSPE (National Society of Professional Engineers 全米 PE 協会) と Affiliate agreement を結び、継続的に人的交流と情報交換を行っています。

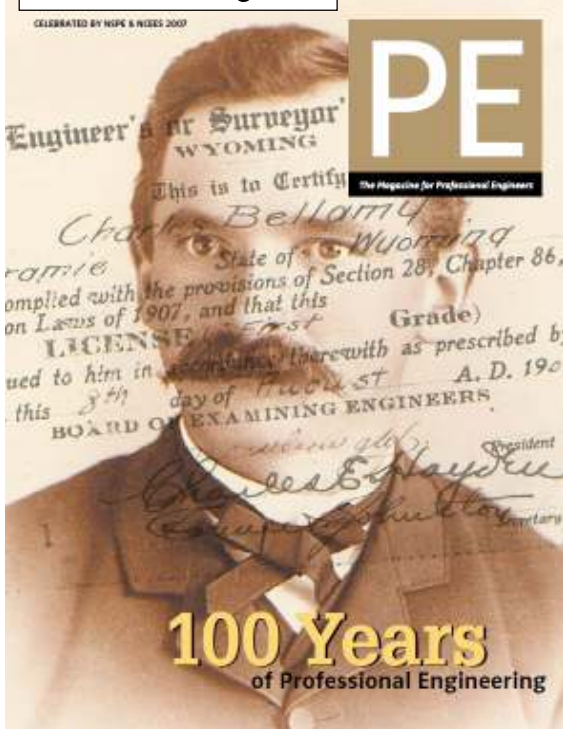
NSPE (全米 PE 協会) では、2010 年夏のフロリダ年次総会において各州協会への加入を必要としない全米会員 (National-only) の創設が決定されました。このことに対応し、海外支部である JSPE 会員についても National-only に相当する International 会員/会費制度の適用 (新会費 128 ドル/年: 従来は 200 ドル超でした) が認可されております。

NSPE 会員になると次のメリットが得られます。

- ・ PE Magazine が年 10 回配送される
- ・ NSPE ホームページ上の Ethics 教材などにアクセスできる
- ・ ほぼ毎日、欧米のエンジニアリングニュースを抜粋したメールニュースが配信される
- ・ NSPE annual meeting ほかの行事に参加でき、全米の PE と交流できる
- ・ その他

是非この機会に JSPE に加え NSPE への入会もご検討下さい。入会希望の方には専用申込み用紙をお送りしますので、渉外部会 external.2007@jspe.org (担当: 川村) までご一報下さい。

月刊誌 PE Magazine



メールニュース Daily Designs



全米各地でのNSPEイベント



教育部会 CPD セミナー

教育部会 CPD セミナーについて

教育部会では、各種技術セミナー、鬼金コース、英語による Discussion 力育成コースを開催しております。ぜひご参加ください。

1. CPD2010 セミナー(東京地区)

東京地区では、10月～12月に以下のセミナーを実施しました。

2010年11月27日(土) 13:00-16:00

「グローバル経営時代の組織と人事-『日本』の強みを磨く-

2. CPD2010・関西セミナー

関西では、10月～12月に以下のCPDセミナーを開催しました。

2010年10月9日(土) 13:00-16:00

「全米PE協会総会参加の報告」

2010年11月6日(土) 9:30-12:00

「神戸大学MBAを修了して」

2010年12月4日(土) 13:30-17:00

「発電プラントの材料劣化予測に関する話題」

「スケールアップの考え方とバッチプロセスのスケールアップ」

3. 鬼金 CPD2010・関西コース(全3回コース)

関西では、より実践的なプロジェクトマネジメント研修コース(全3回)を計画し、9月および11月には、第1講と第2講を開催しました。1月には第3講を予定しております。東京地区では、2011年9月、11月、2012年1月に以下のセミナーを予定しております。

第1講 2010年9月4日(土) 13:00～17:00

「フィジビリティスタディとコストマネジメント」

第2講 2010年11月6日(土) 13:00～17:00

「Scope management and Requirement management」

第3講 2011年1月22日(土) 13:00～17:00 【開催予定】

「タイム・マネジメント 手法とパラメータの研究」

4. 鬼金 CPD2011・関西コースガイダンス

関西では、プロジェクトマネジメントコース(「鬼に金棒、PEにPM」鬼金 CPD2011・関西コース)を、2011年4月～2012年2月に月1回土曜日の午後に、神戸三宮の兵庫県民会館にて、全10回開催することを予定しております。そのコースガイダンスを以下の日程で開催いたします。

2011年1月22日(土) 9:30-12:00 【開催予定】

「プロジェクトマネジメントコース(鬼金)2011ガイダンス」

5. 英語による Discussion 力育成コース(全5回コース)

東京地区では、まなび株式会社代表取締役の大塚雅文氏(MBA)の御指導の下、英語による Discussion 力育成コースを東京・八丁堀のまなび株式会社講習室にて10月から毎月1回開催しました。10月～12月の内容は以下の通りです

第1回 2010年10月23日(土) 10:00~12:00

Discussionのルールを学ぶ

第2回 2010年11月14日(土) 10:00~12:00

Active ListeningとDiscussionを体験する

(教育部会部会長 青木豊加 education.2007@jspe.org)

ホームページ便り

ホームページ便り

もうお気づきの方もいるかと思いますが、かねてよりの懸案だったホームページの改善に取り組んでおり、現在少しずつ改定していております。基本レイアウトは変えていないので見た目には気づきにくいですが、約40項目のコンテンツの中身や場所を変更しました。

改定内容は主に以下のような内容です。

1) 既に利用されていないページの削除

→例えば、BBSは閉鎖しました。

2) 内容が古く、現状にそぐわないページの更新

→例えば、試験情報やリンク集、組織表、活動予定等の内容を新しくしています。

3) 知りたい情報を検索しやすくするための改善

→中身の薄かった「技術情報」ページを「資格・技術情報」ページに変更して、この中にPE制度、資格取得方法、試験情報等を入れました。またTOPページの過去のイベントのページ番号を上にもっていき、検索しやすくしました。

また今年の3月にアンケートをとって、会員の皆様方からご意見を頂きましたが、これらの多くを反映しています。

改定はまだ継続中であり、JSPEに関する説明の記述は年明け以降に改善予定です。

TOPページのレイアウトも少し手を加えようかと考えております。英語ページはその次の課題になります。なかなか一気に進みませんが、今後とも見やすく、ほしい情報が手に入るようなホームページにしていきたいと思いますので、皆様からも具体的な改善や追加の要望がありましたらぜひお寄せください。

(広報部会 西川 理 public.2007@jspe.org)

Coming event

2011-3月5日 PE/FE 合格祝賀会

2011-4月10日 PE/FE 試験

新入会員紹介

敬称略、順不同

■氏名： 大西 祥作 PN-0058

■資格： 技術士(機械部門)、第3種電気主任技術者

■専門分野： 機械、原子力

■入会動機： PE 会員の方々との交流や

JSPE 主催の CPD セミナーによる自己研鑽

■自己紹介： 神戸の重工業メーカーに約三十年近く勤務しております。設計職ですが、現場での物作りや現地の据え付け、調整、試験等についても設計の立場から十年程度関わった経験があります。2010年の春に PE 試験に合格しましたが、手が遅くまだ登録準備中です。(2010年内に少なくとも登録申請し、2011年早々には登録を勝ち取りたいと思っています。)

■JSPEに望むこと：

まだ2回程しか CPD セミナーに参加していませんが、みなさん志が高く、刺激を受けました。これからも CPD セミナー等を継続的に企画いただき、お互いに切磋琢磨し、会員の更なるレベルアップを図ると共に、JSPE 及び会員各位が社会に貢献されんことを期待します。



■氏名： 齋藤方子 AF-0058

KATArch.-方建築設計室

<http://www.katarch.net>

■資格： 一級建築士

■専門分野： 建築意匠設計

■入会動機： 自身の専門分野を超えてネットワークを広げるため。

■自己紹介・JSPEに望むこと：

この度、JSPE一般会員として入会させていただきました。前号であります2010 October Issue で”米国建築家事情”という題でも執筆させていただきましたが、私は2000年から2008年まで米国に滞在し、1年間をLos Angelesで4年間をNew Yorkで建築士として就労いたしました。日本での建築士としての経験を含めると建築士歴は10年目となります。私が専門とする建築意匠設計はPEやFEとして登録されている技術士の方々の分野とは異なります。しかし、建築を設計、建設する過程において、技術的な知識と調整を必要とします。発注者が求める要求を元に建物の構造・設備を構造設計士・設備設計士と共に計画し、法規や予算と照らし合わせ、自らが求めるデザイン性を満足させるよう全体をまとめ上げるのが意匠建築士の役目です。

JSPE セミナーでの多岐に渡る技術士との出会いは新鮮な刺激となっております。又、11月27日の中島正樹氏によるセミナー「グローバル経営時代の組織と人事」では、専門分野を包括し



たマネジメント法について非常に勉強になりました。意匠を手掛ける建築士にとって、新しいアイデアを生み出すためには刺激が必要であり、加えて、工事に関わる様々な業者や技術士を整理しまとめあげる能力も重要です。この様に皆様とは分野が違いますが、JSPE のセミナーを通して貴重な経験をさせていただいております。厚かましい様ですが、これからもセミナー等に参加させていただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

■氏名： 黒田 慧祐 FE-0360

■資格： FE、第一種冷凍機械責任者、TOEICテスト895点、
中国語検定4級

■専門分野：ターボ機械(centrifugal compressor)

■入会動機： 様々なエンジニアとの交流

■自己紹介：アメリカに留学していました。大学では航空宇宙工学を専攻し、副専攻の機械工学科と共に Double Major で 2008 年 5 月に卒業しました。アメリカでの生活は大変な事もあり、結構苦勞もしましたが、色々な体験を通して成長することができました。帰国後は 6 月から横浜の重工業メーカーで働いていて、もうすぐ入社 4 年目になります。開発部に配属され、冷凍用ターボ圧縮機的设计・開発に従事しています。業務内容は振動解析、FEM、3D デザイン、部品や構造の詳細設計、インペラの性能計算など多岐に渡ります。語学が好きで、将来は語学と技術を活かして、海外で仕事をしたいと考えています。外国のエンジニアとディスカッションや仕事を一緒にしたいです。将来使うかはわかりませんが、中国語を 2 年ほど勉強しています。漢字が日本語に似ていて、文法が英語と似ているので、親しみやすいです。自分なりに目標を決めて、地道にやっていくことにより、将来は技術と語学で勝負していきたいです。そして色々な経験を通して、成長していこうと思っております。

■JSPEに望むこと：PE 取得のアドバイスやサポート



■氏名： 中村 重徳 AF-0059

■資格： 技術士一次試験合格、第一種冷凍機械責任者

■専門分野： 機械(4 力)、空調分野

■入会動機： 日本を盛り上げるためにまず日本プロフェッショナルエンジニア協会(JSPE)を盛り上げに入りました。会員様との活発な情報交換ができたと思います。

■自己紹介： 今年社会人3年目の 27 歳になる若手エンジニアです。皆様のようなスペシャリストを目標に毎日切磋琢磨し少しでも目標に近づき、最終的には日本を活気づけさせる力を持つ人間になることが目標です！



SNS サイト mixi にコミュニティを作りました。情報交換にご利用ください

http://mixi.jp/view_community.pl?id=5384827

■JSPEに望むこと:

自由に JSPE を宣伝してもいいですか？事後承認になるかもしれませんが…。
まあ、この小生を JSPE 会員に入れてくださった心の広い会ですので、許してくれるとっております。

■氏名: 川上 喜博 (かわかみ のぶひろ) FE-0358

- 資格: 技術士(建設部門)[鋼構造およびコンクリート]、コンクリート主任技士、FE 試験合格済み(2010.4)
- 専門分野: 港湾構造物の設計、コンクリート構造物の設計
- 入会動機: PE受験・登録情報の収集、会員の皆さんとの交流機会を得ること
- 自己紹介: 現在は、ゼネコンの土木設計部橋梁設計室でUFC(Ultra high strength Fiber reinforced Concrete)を適用する特殊構造物の設計を担当しています。入社から 18 年 8 カ月ですが、大規模集客施設の駐車場他交通関連施設の交通量調査・施設計画や、土木設計部に異動後は、約 10 年間でエネルギー系の民間の顧客の港湾構造物の設計、それ以外の約 4 年間で現場施工管理他を経験させてもらっています。海洋設計室から派遣されてバブル崩壊前のドバイに約 1 年間滞在し、巨大人工島に架ける海上橋梁の設計PJマネジャーを担当して帰国後、国際支店パナマ運河第三閘門入札PJの施工検討チームを経て、現任所に異動になり1年半が過ぎました。PE、PMP 取得の必要性は、ドバイでの現地の設計会社との業務経験と、パナマの件でベクテル社との業務経験とから痛感しました。JSPE 入会の動機は、大学の同級生で会社の先輩の谷さん、ドバイでもお世話になった会社の先輩で JSPE 監事の日野さん達の勧めによります。春の FE 試験は休日出勤の連続などで準備が不十分なまま受験しに行ったにも関わらず一発合格してしまいましたので、調子に乗って、これも準備が不十分なままに、この秋の PE 試験(Civil breadth, Geotech. depth)を受験したばかりです。

■JSPEに望むこと:

引き続きタイムリーな PE 登録情報などを提供していただけると安心です。また、社外の方と交流できる場にも積極的に参加して、できるだけ機会を活かして行きたいと思います。



ドバイの現地設計コンサルタントのエンジニア達と

■氏名： 丹下 裕 FE-0359

■資格： 博士(工学)、EIT

■専門分野： 医用工学、福祉工学

■入会動機： 今年度末で実務経験が満足するため、PE 取得を目指そうと思った。
また、そのための情報収集を行おうと思った。

■自己紹介： 長かった学生時代(9年間)が終わり、就職してから5年が過ぎようとしています。高専で教員をしているため、学生と接する機会が多くあります。普段は、専門科目を教えたり、クラブ指導を行ったり、合間をみては研究をしたり、学会に出席したりしています。既に入会されている技術者の皆さんとは少し違った生活をしているように思います。高専は、中堅技術者を養成する学校であると先輩の先生から教わったことがあります。一度も会社に就職したこともないため、学生にエンジニアとは・・・と語ることも出来ず、申し訳ないような思いを持っています。技術者の考えを持った教育が出来るようになったらいいなと思っています。今後、各種セミナーなどに積極的に参加していきたいと思っています。よろしくをお願いします。



■JSPEに望むこと:

PE 試験の情報提供やサポートをお願いできたらと思います。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年も PE 試験、州登録に関する情報や PE のための ETHICS や PDH 情報などの記事を取り上げます。
JSPE magazine に関してのコメント、感想は edit.2007@jspe.org をお願いします。

編集委員

編集責任者：神野

Ethics 編集委員：田崎

会員紹介編集委員：西川

海外からの連絡：日野

合格体験記：丹下

新入会員：平山

州ボード情報：川村

オレゴン試験資格認定委員会情報：鈴木